

カトリック仙台司教区・ **カリタスジャパン** 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座:00170-5-95979
名義:カリタスジャパン

仙台教区サポートセンター（SDSC）の支援活動に 関わってくださるすべての皆さまに クリスマスのお祝いと 新年のご挨拶を申し上げます

仙台教区サポートセンター長 平賀 徹夫 司教



東日本大震災が起こったのは2011年3月11日、そして3月16日にはSDSCが立ち上げられました。それ以来の1年9カ月間、本当に大勢の方々からの善意あふれる力強いサポート・ご協力のおかげで、被災者・被災地への支援活動が続けることができました。この間の活動・人と人との関わりを通して、死の暗闇から復活の光への歩みと感じられるたくさんの小さなことあるいは時には感動的なことも少なからず体験してきました。SDSCに関わってくださったすべての皆様、本当にありがとうございました。

年は2012年から2013年へと改まりますが、この救援・復興活動はまだまだ必要とされています。そして必要とされる限り続けていきたいと思っています。SDSCでは、大震災発生から6カ月間、つまり緊急避難所に避難された被災者への支援の時期を第1期、その後、避難所から仮設住宅での暮らしに移られた方々への支援の1年半を第2期として活動してきましたが、第3期として、2013年4月からの3年間を設定して支援に当たることを考えました。弱い立場におられる方々に寄り添わせていただくことを通して、必要とされていることを把握し、人と人とのつながりづくりに役立ちたいと思います。先般、原発問題に苦しむ福島県の被災者の支援にも関わりたいということで、「福島デスク」を立ち上げたところですが、皆様、これからもどうかお力をお貸しくださいますように。どうぞよろしくお願いいたします。

クリスマスの季節に当たって神さまからの豊かな祝福が皆様お一人おひとりの上に注がれますように、そして2013年を通して、慈しみ深い神さまの力強い導きがありますように、心よりお祈りいたします。

「新しい創造」基本計画、第3期に向けて

仙台教区サポートセンター センター長補佐 小松 史朗 神父

12月の初めに仙台教区の平賀司教より、「新しい創造」基本計画、第3期に向けて一 が発表されました。計画の実施期間は2016年の3月末までになります。もちろん2016年にすべてが終わる訳ではないのは言うまでもないことです。

第3期の大きな特徴と言えるのは「災害復興住宅への移行」が挙げられます。これからの3年間で何処の被災地でも災害復興住宅が作られ、被災した方々は仮設住宅から復興住宅へと生活の場が変わります。避難所から仮設住宅の時もそうだったように、国の復興支援に対する姿勢や各被災自治体の取り組みの本気度によって、進み具合が変わってくるでしょう。それに伴いわたしたちの活動も絆の造り直しがテーマになるだろうと思います。避難所の中で紡がれた絆は、仮設への移行に伴い新たな作り直しを迫られました。今度もまた仮設で出来た絆（被災した方々同士の絆、被災した方々と共に寄り添う私たちとの絆）は新たな作り直しを迫られます。もちろん折角出来た絆を壊すことなく、新たな生活の場において新たな絆も紡ぐことが求められると考えて居ります。そのためには、たとえ場所が変わっても変わらずに被災者に寄り添う活動が求められます。

もう一つの特徴として福島県のが挙げられます。福島県の沿岸部では各自治体毎にこの3年間の中で、今後の10年後、20年後の自分たちの住む町の方向性が提示されるはずです。ある町は住むことを諦める決断を下すかもしれませんし、またある町では大きな町への合併を決めるかもしれません。さらに、これまで明らかにならなかった放射線被爆の実態と今後のありようも明らかになるでしょう。いずれにしても、住民の方々には心の安らぎが与えられない状況が続き、悩みと苦しみのうちに疲弊することは容易に想像がつく中で、やはりこれまでと変わらず「被災者への寄り添い」が活動の根幹になるでしょう。

被災者への寄り添いは神さまが私たちひとり一人と共に居ることを体現することに他なりません。そして、被災した方々の復活の物語の証人になることだと私は考えています。今後とも私たちの活動の上に神さまからの大きな祝福を願いながら……。

次ページ以降は、下記の内容をご紹介します。

- P2～3…各地のクリスマス（P2：石巻ベース・米川ベース・釜石ベース、P3：大船渡ベース・宮古ベース・八木山オリーブの会）
- P3…「1通のテストメールから始まったある日の出来事」、「ボランティア急募」
- P4…「福島デスク誕生」、「その時、ベースは～2012年12月7日～」

石巻ベース《クリスマス会》

12月15日（土）、13:00から、石巻ベース1階ホールで、ベース近隣の住民の皆さんと石巻教会信徒の方々をお招きし、ベースのクリスマス会が行われました。お母さんにおんぶされた赤ちゃんからお年寄りまで、老若男女44名の方々がベースを訪れ、ホールはまさに「満員御礼」となりました。

クリスマス会はボランティアさんの伴奏による、参加者全員のクリスマスソング合唱で始まりました。「きよしこの夜」等、だれにとっても親しみのある歌を数曲歌い、歌の合間には伴奏者による電子ピアノのソロに耳を傾けました。

歌で気持ちもすっかりクリスマスになったところで、次はビンゴ大会です。普通のビンゴは最初に上がった人が1等賞ですが、このビンゴはちょっと違います。上がった順番にくじを引き、その番号の賞品が当たるので、最後の人で1等賞になるかもしれないのです。実際、最後の方になっても豪華な賞品が残り、最後まで盛り上がり続けるビンゴ大会となりました。

プログラムの最後は、皆で机をかこんでの茶話会となりました。ベーススタッフ手作りのケーキや、全国の皆さんから送っていただいた

手作りクッキーを食べながら、話に花が咲きました。

石巻ベースにこんなにも大勢の方々が集まっていたのは、ベースと地域住民の皆様との絆の証しです。これからも地域と一体となって、被災地の方々に寄り添っていければと思います。



米川ベース

《支援物資をサンタになって仮設住宅へお届け♪》

12月24日、25日、この日の活動は南三陸町ボランティアセンターに届いた支援物資を、カリタスが仮設住宅へ配布するという内容でした。朝、ボランティアセンターで支援物資を皆で仕分けして、車に積み込みました。その後、ボランティアメンバーはサンタ帽やトナカイの角を頭につけて、合計13箇所の南三陸町の仮設住宅を巡り、一軒ずつ手分けして物資をお届けしました。また白くて大きな袋にお菓子を詰め、子どもたちを中心に配りました。



今回訪れた仮設住宅は、社協の方達が選んだ、普段あまり物資や支援が行き届いていない場所でした。そのため、住民の皆さんは歓迎してくださり、最後まで手を振って見送りしてくれる方も多数いらっしゃいました。

滞在時間はあまり長くはありませんでしたが、住民の方と世間話をしたり、子どもと遊んだり、楽しい時間を過ごすことができました。

ただクリスマスの飾りつけなどが少なく、町の中心から離れた地区では明るい雰囲気あまり感じられませんでした。そんな中、冬の寒いクリスマスの時期に沢山のボランティアが来てくれて本当に感謝です。

来年はもっと南三陸町全体で明るい雰囲気の町になって欲しいと強く感じました。



釜石ベース《★メリークリスマス》

今回、釜石ベースでは仮設住宅談話室及びみなし仮設集会所にて11回、ふいりあにて12月24日、25日の2回の合計13回のクリスマスパーティーを開催しました。

仮設での内容は、シスター山本のギター演奏による歌を披露、さらには皆も参加しての合唱。クイズで盛り上がり、皆にプレゼントを配りました。

「すべての人の平和を・・・」のソロに涙ぐむ方もおられ、クイズでは本当に楽しそうな笑顔が見られました。年に一度のクリスマス、すべての人にとって「喜び」のひとつでありますようにと願います。

教会の一階「ふいりあ」でのパーティーは24日が小教区の信者さん方とカリタス釜石のボランティアによるパーティーでした。昨年よりも少ない参加者でしたが、皆さん喜んでおられました。即席のカリタス合唱団による歌の披露、サンタとトナカイの登場には皆が大喜び。笑い声が響きました。

25日は田園調布雙葉高等学校より23名のボランティアと近隣の方々と天神町仮設の方々をお招きしてのパーティーでした。仮設住宅にお住まいの方のみならず、たくさん子どもや支援者なども来場され、ついに立ち席も満員となりカリタスボランティアはパーティーには参加できませんでした。それでも、全く初めて教会に足を運んだ中学生や子どもの顔を見られたのは嬉しかったです。女子高生によるパーティーは本当に素晴らしい内容でした。事前に充分時間をかけ丁寧な下準備をした成果でしょうか、場の雰囲気全体が喜びと熱気に満ちていたように感じました。合唱もビンゴ大会も大変楽しく、多くの参加者が癒されていたようでした。

どのパーティーも2時間弱の集いですが、このたったの二時間に込められた想い、願い、情熱は幾日にも及ぶ皆様の祈りと捧げ、そして「何か楽しいこと！」を心待ちにしていたすべての人の望みが凝縮された時間であったように思います。



大船渡ベース《100人サンタクロース》

大船渡ベースでのクリスマスは、大船渡市に入っている他のボランティア団体と協力して大船渡市全域で行った「100人サンタクロース」です。「100人サンタクロース」とは、22日～24日までの3日間で大船渡市内の各地域の公民館をお借りして、拠点班・練り歩き班・イベント班の3班に分かれて、地域全体の子供たちへクリスマスプレゼントを配布するイベントです。

拠点班は、公民館に来てくれた子供にプレゼント配布と遊戯会。練り歩き班は、拠点まで来ることができない子供たちのために、地域を練り歩いて出会った子供にプレゼント配布。イベント班は、子供会へサプライズ登場してのプレゼント配布です。

遊戯会では、「だるまさんが転んだ」ではなく、「サンタさんが転んだ」にして、サンタクロース・トナカイ・子供たちで入り混じってはしゃいでいました。

クリスマスソングに、振り付けを付けて一緒にダンスをして踊りをしたり、子供たちと楽しく過ごすことが出来ました。



このイベントは、仮設住宅に入居している子供だけではなく、地域全体へのイベントとして開催されました。普段出会うことのできない子供たちとの出会いや、子供たちの楽しそうな笑顔、遊戯会でのサンタクロースとの「サンタさんが転んだ」などで元気に走り回っている姿が印象的な、楽しいクリスマスでした。



宮古ベース《クリスマス会におでんせ！》

宮古ベースでは、最遠（車で1時間）の重茂(おもえ)半島千鶏(ちけい)地区仮設（13戸）でクリスマス会をしました。

前日仕込んだ20人分のおでんとピザパイ6皿を持って行きましたが、予想を大幅に上回る人数(スタッフ含めて36人)で不足を心配。子どもたちとリース作りをした後、じゃんけんのゲーム。中が見えない箱に手をつっ込んで賞品を選んでもらい、一喜一憂。



さて心配のお食事会。お替わりをする子もいて皆満腹。終わってみればおでんもピザも残ってしまった！イエスさまが増やしてくださったようだ。

クリスマスソングの後、サンタから玩具のプレゼント（実は先週宮古教会が実施した山田町クリスマス会の余り）。これまたピタリの数！お年寄りには帯広の教会からの手編みひざ掛けをプレゼント。参加者も（？多分）スタッフも楽しんだ会でした。

八木山オリーブの会《仮設のクリスマス会》

12月19日に八木山オリーブの会は亘理町旧館仮設でクリスマス会を開きました。

クリスマスとお正月の両方に使えるお花をマグカップに活けました。参加費用はマグカップ代100円です。亘理町の臨時職員も皆被災者ですから一緒に参加します。ワイワイガヤガヤの中で部屋に飾る花が活けられてゆきます。金の飾りを取るとお正月飾りになるように工夫しています。

お花が活け終わるとお菓子を食べコーヒーを飲みながらじゃんけんゲームで欲しい商品を目指して競争です。参加者みんなに商品がいきわたった頃男性も参加しました。それまで男性は好敵手相手に将棋とオセロに夢中でした。

じゃんけんゲームで気持ちが溶け合った後は男性を含めて歌の時間です。クリスマスソングの披露からみんなで歌えるナツメロに入ると小学校時代の学級委員長を皆が指名しての「春の小川」の大合唱になりました。歌い疲れるとそれぞれのおしゃべりがはじまります。「今年も来てくれてありがとう。」「他の仮設にはいかないでオレたちだけのために来てくれたんだと、初めて知った。」

翌年の訪問日を皆さんに確認して楽しい時を終わりました。

12月28日には、仮設の戸別訪問で『年越しそばと青森ヒバ』を配りました！



『1通のテストメールから始まったある日の出来事』

それは、1通のテストメールから始まりました。

1人の神父様から、一言「テストメールです」というメールがカトリックオールジャパン・メーリングリストに届いたのは、12月11日午前11時56分。

そのメールに答えて、「テストメールは届いています」という返信メールが続々。北は北海道から南は広島、高松まで、いろいろな司祭、修道女から合計17通届きました。12月7日の地震、津波の避難騒ぎがあったからでしょうか、連絡の必要性を痛感なさった方が多かったようです。

その中には「神父さま何事が起こりましたか」と心配する人もおり、遂に、その神父様から、

「皆さま、すみません。こんなに反応してくださってありがとうございます。なんかとてもうれしくなっていました。……今日は月命日ですね。……誰一人忘れ去られることのない、心あたたまるといクリスマスを迎えることができますように！」というメールがとどいて、この出来事の幕はおりました。

ボランティア急募

各ベースでは、ボランティアを募集しています。

ボランティア活動を継続し、被災地に住む方々と共に歩み続けるため、皆様のお力を貸してください。

お申し込み方法など詳細は、カリタスジャパンブログや各ベースのブログをご覧ください。

ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

福島デスク誕生

2012年12月1日、仙台教区サポート会議において、「福島デスク」設立が決定しました。実際のお披露目は、12月10日郡山教会で開催された「第5回福島ブロック会議」の席上においてでした。

3・11以降、福島県への支援は、原発問題があるため、特殊で長期にわたる活動の必要性が感じられていました。CTVC（カトリック東京ボランティアセンター）、原町ベース、いわきサポートステーション「もみの木」、いわき・松木町・白河・二本松・郡山・会津若松・原町の7つの教会、聖公会の人々が、避難所や仮設住宅などで福島の支援に関わっていますが、さらにより支援にしていこうと、これらのグループをつなげるために「福島ブロック会議」が3ヶ月に1度、開かれることになりました。そしてこれまでに、新しい動きが紹介されたり、協力が申し出られたりと4回の実り豊かな会議を積み重ねてきました。

今回の第5回福島ブロック会議において、「福島デスク」の立ち上げが、小松史朗仙台教区サポートセンター長補佐より発表されました。その後、仙台教区サポート会議で、これまで福島各地を動き回り、活動を支えてくださったCTVCのような働きをする「福島デスク」を福島県内に設置することが望まれ、二本松教会にデスクを置くこと、責任者として二本松教会信徒会長の柳沼千賀子さんにその任を依頼することが決まったという説明がなされ、柳沼さんが皆さんに紹介されました。

全員の拍手のうちに立ち上がったデスク長・柳沼さんは、「今、2人のスタッフを公募しているところです。その人々が決まったら、実際の活動が始まります。まず、ホームページを立ち上げ、福島県内の活動を結びつけ、関係を密にすると同時に、情報発信につとめたい」と抱負を述べられました。



写真中央が、デスク長 柳沼さん

その時、ベースは ～2012年12月7日～

2012年12月7日17時18分ごろ、東北地方で震度5弱の地震がありました。今回だけでなく、東北地方はしばしば大小の地震がありますが、津波警報が出されたのは、2011年4月7日と今回で2度目でした。幸いにも、仙台市内のライフラインの被害がなく、電話やメールで連絡を取ることができました。

震源地は三陸沖北で、震源の深さは約10キロ、地震の規模はM7・3と報道されました。これに伴い、宮城県には津波警報、岩手県・福島県沿岸部の住民には、津波注意報が出されました。東日本大震災を思わせる緊迫感が漂うなか、その日の状況を送られてきたメールをもとに、皆様にお知らせいたします。

地震直後、仙台教区サポートセンター・センター長補佐の小松史朗神父は、すぐ全ベースに電話を入れましたが通じません。急いでメールで、ボランティアの方々とベーススタッフの無事の確認を取りました。

【米川（南三陸）ベース】

17時50分―「活動中のボランティア、スタッフは全てベースに戻って来た」との第1報。55分―その日休みだったベース長・千葉さん

からベースにメールが届いたのですが、連絡が取れない状況のため、「携帯、携帯メールは使えない状態のため、千葉さんにこちらの無事を伝えてください」と依頼がありました。

【大船渡ベース】

17時58分―「地の森仮設に、男女とも全員避難」と第一報。

地震発生から約1時間30分。この間に電話やメールを通じて各ベースの情報が集約され、小松神父から18時42分―「夕方に大きな地震がありました、大丈夫です。各ベースとも避難完了です。津波警報が宮城に出っていますが、高台避難完了です。取り急ぎ連絡まで」と支援してくださっている各教区の支援関係者に発信できました。その後、菊地功司教様から19時18分―「復興支援の皆様は言うにおよばず、被災地のすべての方の安全をお祈りいたします」という励ましのメールが届きました。中央協議会支援復興室の事務担当・濱口一則さんから被災地の皆様、ベースのスタッフ、ボランティアの皆様に対して、19時36分―「現場が混乱するかと思い、連絡を控えておりました。昨年4月7日の大余震のときは、私も、仙台教区サポートセンターの倉庫で寝ており、もう少しで荷物の下敷きになるところでした。あれより大きな地震でした。石巻では、20cmの津波と聞きました。地盤が低くなっているので心配です。皆様の安全を祈っています」と。また、ローマで神言修道会の会議に出席中だった成井大介神父からも「皆様無事とのことで、何よりです。本当にお疲れ様です。遠くより皆さんと心を重ね、お祈りしております」とメールが届きました。

その後、各ベースから続々と避難先から無事帰って来たという連絡が入り始めました。

【大槌ベース】

19時45分―「大槌ベースは宿泊者15名全員避難し、ただ今帰還しました。今から夕食にいたします。連絡くださいました方々に感謝申し上げます」。

【大船渡ベース】

19時54分―「男女15名、無事帰宅し、今から夕食です。ありがとうございました」。

【釜石ベース】

20時32分―「お陰様で釜石ベース全員、避難所から戻り夕食をすませました。避難所となった千寿院には100名以上の方が避難しました。市役所の動きが早く、避難後1時間以内に担当者からの説明、名簿配布、ご飯の差し入れがありました。災害対策に慣れてきた感があり、複雑な心境です。皆様のご心配、お祈りに感謝です」。

【原町ベース】

21時4分―「棚から物が少し落ちましたが、ボランティアの皆さんは変わりありません。南相馬では400人が避難したと報道されました。原発も異常がないということでホッとしております。お祈りありがとうございます」。

【石巻ベース】

21時34分―「教会で、会津、川崎両神父様にとってもよくして頂き、感謝!です。車がやはり避難の動きの中で渋滞しますね。皆無事ですありますように!」。

そして翌日、札幌にいる上杉神父様から「遅くなりましたが、昨晚の地震について宮古ベースの報告」というメールが届きました。

【宮古ベース】

「昨夜の地震は一日の活動を終え、宮古教会司祭館で中尾神父様と一緒に3人のボランティアが夕食の準備をしていた時でした。津波注意報の情報に注視していたようですが、市からの避難指示はなく、海岸に近づかないようにという放送のみ。食事を終えて無事、仮設宿舎に戻ったようです。教会、信者の方、各仮設にも特に被害はありませんでした。まとめ役の芳沢氏と連絡を取り、知り得た情報です。避難指示のあった各ベースのみなさんの冷静で素早い対応とご無事を知り、安心しております。ご心配いただきありがとうございました」。